石山プロジェクト

現場で教わった、保育者として大切なこと

講師の先生の貴重な体験談から学ぶ

保育現場の先生の仕事ぶりから学ぶ

保育現場での子どもとのふれあいや先生が仕事をする姿から学びたい。そんな思いから、幼稚園や学校で保育・学習の支援活動のボランティアを行う、石山プロジェクトに参加しました。週1回、講義のない日を選んで参加。活動期間は半年に設定されていますが、私は継続して1年間活動しました。さらに続けたいと思ったほど、得られる学びが大きく、楽しい時間が過ごせました。幼稚園教諭志望の私は、幼稚園の3～5歳児のクラスで保育補助として携わりました。子どもと接していると、これまでの授業で学んだ知識に実感が伴って理解が深まります。年齢ごとの成長の段階などを自分の目で確かめることができました。一方で困ったのは、さまざまな場面での対応の仕方が分からなかったこと。まだ子どもと接した経験が少なかったので、子ども同士のトラブルが起こった時など、自分なりに考えて声かけをしてもなかなか納得してもらえません。そんな私でも少しずつ子どもとうまく関われるようになっていったのは、先生方がどのように対応しているのか実際に見て学べたから。子どもにうまく伝えるための言葉遣いや成長段階によって異なる対応の仕方など、先生方の仕事ぶりを見ているだけで勉強になりました。

さまざまなアドバイスをもらう省察会の様子

SAKI KAYAMA

鹿山 沙希
教育学部
大手前高校（大阪府）

月に一度の省察会が活動の支えに

長期間継続して活動することで、先生の役割の幅広さに気づくことができました。クラス全体に目を配っている様子、季節ごとに遊びを工夫している場面などから、先生は目の前の子どもに対応するだけでなく、子どもが楽しく過ごすための工夫や成長につながる環境づくりをされているのだと分かりました。そして、活動を続ける中で大きな支えとなったのは、月に一度プロジェクトの参加者が集まって活動の振り返りを行う「省察会」です。園で起こった出来事を報告し、講師の先生から豊富な経験に基づいてアドバイスをしてもらえます。先生のお話で最も印象に残っているのは、一人ひとりの子どもに向き合い、理解することの大切さを教わったことです。状況や子どもの年齢、普段の様子から気持ちを推測し、保育者はどう受け止めるべきなのかをしっかりと考えさせられる機会となりました。省察会で学んだことを園での次の活動に活かしていくことができ、私の成長を後押ししてくれました。園での活動と省察会で教わった多くの学びは、未来の先生としての私の基礎となってくれるでしょう。子どもの気持ちを尊重し、信頼される先生へと成長していきたいと思っています。

制度紹介

子どもとじっくり関わる半年間

教員志望学生の実践的な指導力を養うために、学校や幼稚園での教育体験を深める学校ボランティア派遣プロジェクト。春学期と秋学期のそれぞれ半年間、1～4回生の教員志望の学生が毎週決まった学年や学級を訪れ、保育や学習の補助を行う中で教職や子どもについての理解を深めます。月に一度、校種ごとに外部講師の先生方を交えて開催される省察会では、活動の振り返りや現場での悩みや疑問点のフォロー、意見交換を行います。

講師の先生からのプレゼントと共に記念撮影